

「西区まるごと博物館推進会」 事例報告の概要

【事務局より説明】

平成16年3月に策定された「福岡市 新・基本計画 西区基本計画」を基に趣旨に賛同した市民が集まり結成されたボランティア団体が、西区まるごと博物館推進会です。

西区にある様々な有形・無形の地域資源である宝を、地域と行政の共働により保存・育成し、西区全体を地域の宝が展示された博物館であるかのように一体的に公開することで魅力的で個性的なまちづくりを行い、その情報を積極的に発信しています。

推進会は平成17年8月から、西区役所と共働でこの推進に取り組んでおり、現在、約60名のメンバーが活動しています。各メンバーは、企画・広報部会、自然部会、歴史部会、文化部会のいずれかに所属し、役割を分担しながら活動しています。

【団体(会長)より説明】

私達の活動は、今年の8月で推進会発足から10年になります。私は昨年、推進会の代表として就任しましたが、発足当時から企画広報部会の代表として8年間務めてきました。

西区まるごと博物館推進会発足当時の企画・広報部会会議は、事務局と私の二人だけの出席者という事が何回も有りました。

それはどうしてなのかと考えてみますと、まず、会議が面白くない、自分が発言する機会がない、会議情報が少ないなど様々な要因があるようです。

それでは、どうすればボランティアに出席してもらえるのか、私なりに考えてみました。

それは次に掲げる事ではないかと思えます。

- ・自分が住んでいる所を故郷としてとらえ、地元の発展に寄与したいという心が芽生える事。自分が住んでいるところの町自慢をしたいという発想。

- ・会員同士を親の友人として、皆で協力してボランティアをしようとの心構え。

一人一人が自由な発想で企画でき、承認を受ければ実現に向けて全員で協力して取り組もうとする姿勢。

- ・何のイベントであれ、成功した喜びを共に分かち合う事。一人一人の小さな貢献活動が成功に結び付くという喜び。

- ・義務感から解放されて気楽に行動する事が長続きする秘訣。家族や仕事が最優先で、家族や仕事を犠牲にしてまでボランティアをする事は必要ありませんという考え方。

以上の様な事を会員の皆様に呼び掛けたところ、気が楽になられたのか自然に出席率や参加率が良くなりました。

一人一人が社会貢献活動に喜びをみだし、頑張る姿勢こそ真のボランティアではないのでしょうか。